

平成18年度学術ポータル担当者研修レポート

一橋大学

13 大川明子

14 宝来貴子

(1)発表資料の状況設定

教授会の前に時間をもらい、教授会出席の教員に説明を行う。対象者は機関リポジトリへの認識は殆どなく、学内発行紀要の電子公開の知識のみと思われる文系教員。

相手が持っている知識に合わせ、その既存サービスの拡充と言う方向から話を始めて、リポジトリの説明とコンテンツ提供の依頼をする。

(2)発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

助言：

「機関リポジトリ」という用語を使って浸透を図ってもよいのでは。

「著者最終稿」にこだわりすぎ。

改訂部分：

「リポジトリ」の用語説明を追加。

「著者最終稿」以外でも搭載可能なケースがあることの説明を追加。

研究者データベース(準備中)との連携を盛り込んだ。

セルフ・アーカイブが海外出版者においては許容される場合が多いことの説明を追加。

(3)リハプレゼンの概要(日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.)

日時:平成18年9月22日

場所:全学情報化グランドデザイン策定 WG

発表者:宝来

発表対象:全学情報化グランドデザイン策定 WG メンバー(教員および職員)

参加人数:14名

(4)リハプレゼンへの反響(アンケートをとった場合の結果、感想の声等)

○リポジトリは著作者が自発的に投稿するためのもので、一部の意欲のある教員の論文しか集まらないのではないかと、研究者個人の自発性にまかせるのと、大学で強制的に行うのと両輪があっているのではという提案があった。また、著作権処理の問題点について、具体的な事例がいくつか出された。これらの意見に対して、投稿は自発的というのが本来の形であり、著作権処理も著作者において手続きしてもらいたいが、事務方の支援は必要と認識している、リポジトリのメリットが目に見えるような形にし、投稿を促進したい、とコメントした。

○現在運用している HDA(Hitotsubashi Digital Archives)は図書館サイトにリンクがあるが※、リポジトリへのリンクは大学 HP におくべきであるとの意見が出された。これに絡み、今後経営企画委員会企画部会傘下に WG を設置して詳細を検討し、全学的に認知されていくよう

に働きかけることを説明した。

※大学 HP と図書館 HP 双方にリンクを設けているが、大学 HP 掲載分の認知が十分ではない。

○現 HDA の維持について質問が出され、本文データを含まないデータの扱いについては今後の課題ということで、回答を保留した。

○グランドデザインの中では、情報発信の 카테고리 (リポジトリの有効活用、研究者 DB との連携) として検討範囲に含むことが合意され、全学情報化グランドデザイン策定 WG メンバーには「機関リポジトリ」の意義、必要性は認知された。

(5) その他(備考、今後の予定と希望 etc.)

「機関リポジトリ」という用語が受け入れられるか心配するところもあったが、本学の場合、現在運用している HDA の発展型として説明することにより、受け入れられる確信は得られた。ただし、HDA 自体の認知度が十分とはいえない面もあるため、ケース・バイ・ケースで丁寧に説明することも想定しておく必要がある。

経営企画委員会企画部傘下に機関リポジトリ検討 WG (教員 8 名・職員 2 名) の設置が認められ、10 月中に第 1 回の WG を開催予定。